

水軒堤防の再生と市民の公園の実現

和歌山市西浜1352 水軒の浜に松を植える会会長 豊田 善之
和歌山市東小二里町4-33 同会副会長 ○田口 右門
和歌山市松ヶ丘2-2-4 同会事務局長 奥津 尚宏

1.活動方針・目的

悠久の歴史を経て、多くの人々の思いにより、今日まで伝えられた白砂青松の風景と人の営みとの共生の文化を宝物として、これらを保全活用しながら水軒の浜を後世に伝えていくことを目的とする。キャッチフレーズは『水軒の浜を「史跡石積堤防」、「白砂青松」、「健康推進」をテーマにした歴史公園に！』

2.活動内容

水軒堤防は和歌山市の西側に位置する約4kmの砂洲に江戸中期に構築された史跡として貴重な約1kmの石積み堤防があり、昭和39年に海岸が埋め立てられるまでは、美しい砂浜と白砂青松の市民の憩いの場であった。埋め立て後は、道路と電車の軌道が堤防に沿って設置された。その後、この地は和歌山県の史跡「水軒堤防」として、指定されたものの、十分な管理がなされず、堤防上には不法の倉庫や家屋が構築され、ゴミ捨て場と化し、松はほとんど枯れ、雑木林となっていた。水軒の浜に松を植える会では、和歌山県の協力を得て、平成20年から、堤防の海側斜面のごみ処理と整地によりきれいにし、この5年間で、約1.7kmの範囲に2000本以上の松を植え、遊歩道を作り、端から端まで歩けるようにした。植樹した松は2000本を超えている。また、軌道撤去跡などに、スポーツ砂場、ドッグラン、健康ひろば、多目的ひろば、フィールドアスレチックなどを設け、多くの市民が利用するようになった。引き続き、堤防上の構築物撤去跡を整地し、松を植えていく活動を行うとともに、堤防上の高台を防災ひろばとして活用していく計画である。

3.他の活動団体の参考となる事例

本会は地域で活動するボランティア団体の有志で結成したが、会長には当地の自治会長がなり、地域住民との連携を図った。

また、将来のこの地の担い手の子どもたちに理解してもらうために、毎年、地元の中学生1学年生全員(約200名)による松の植樹を5年間続けてきた。松の植樹場所が少なくなった6年目からは清掃作業に変更して引き続き関与してもらっている。

地域の人の理解も深めるために、毎年テーマを決めて、水軒の浜シンポジウムを開催してきた。また、全国的な活動である「白砂青松再生の会(会長小川眞氏)」にも参加し、平成25年3月には水軒堤防で第7回白砂青松再生の会和歌山大会を開催した。さらに、陸前高田市や名取市の東北震災で被害を受けた松林の再生にも協力して、松の苗の植栽にボランティアで数名が参加した。

4.今後の課題等

- 活動の中心メンバーの高齢化に対応して、人材を確保し継続的な活動にしていく必要がある。
- 地域住民の地域の環境を守る意識をより高くしていく必要がある。
- 行政との連携をさらに密にし基本的には行政が管理してくれるようにする必要がある。

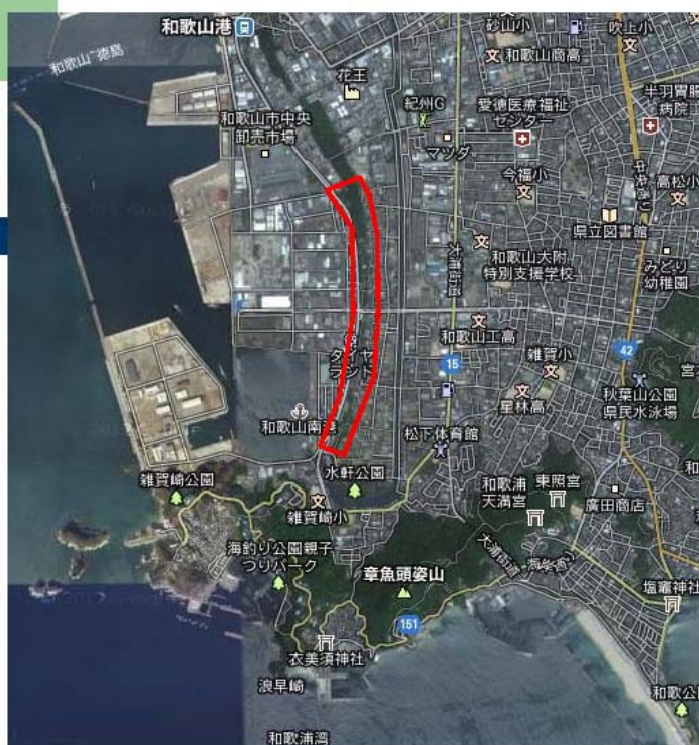
白砂青松の再生と市民の公園の実現

水軒の浜に松を植える会

副会長 田口 右門

2014.3.1

水軒堤防とその周辺



水軒堤防の

緑の形は同じであるが松林は荒れ果てている

高津子山から
の遠望今昔

平成23年撮影



昭和29年頃

約60年前

美しい遠浅
の浜辺と松林
があった



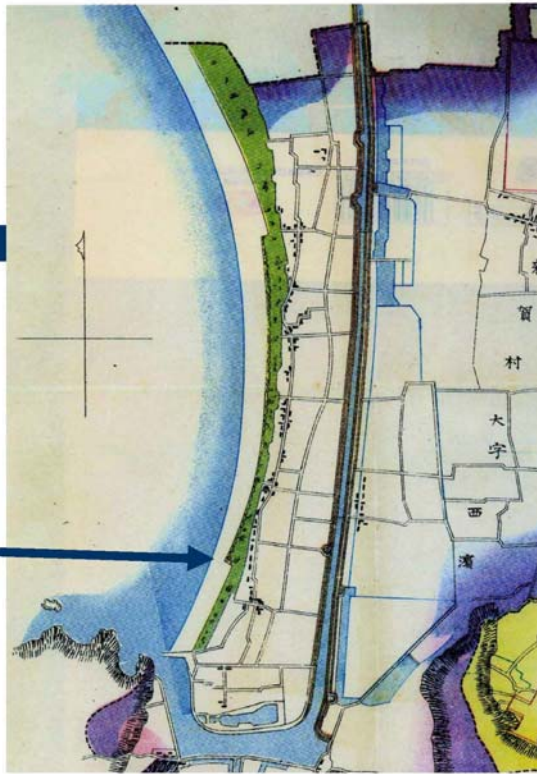
紀ノ川河口から水軒川河口にかけて、水軒浜の白砂と松林がS字状の曲線を描いている。平野部では、田畑の中央を水軒川が直線状に流れているのがわかる。当時、この河口ではアサリがたくさん獲れた。松林の右上の方に見える花王石鹸の工場は、戦時中の昭和17年に操業を開始。当時の社名は大日本油脂であった。(岩西正次氏撮影)

水軒の浜の思い出



古地図1

昭和2年発行
雑賀村誌より



古地図の 水軒公園

昭和23年発行

水軒公園

計画があったが、
現在は公園として
管理されていない。
グーグルマップに
は現在も記載され
ている。



水軒の浜に松を植える会発足の経緯

- 平成19年に西浜中学校同窓会が学校創立60周年を記念して「**みんなで地域の宝さがし**」をテーマに西浜博を開催。宝さがしウォークやシンポで、水軒の浜の現状に憂える。
- 同年、道路拡張にともない**石積堤防**が発掘され、その価値の高さが認められ、史跡としての保存が問題となる。
- 同年末、**トンガの鼻自然クラブ・浜友会有志、その他関心のある方々**が集まり水軒堤防や水軒の浜について語り合う。
- **平成20年1月**。2つの団体のメンバーが中心になり、地元自治会の人も加わって水軒の浜に松を植える会が発足

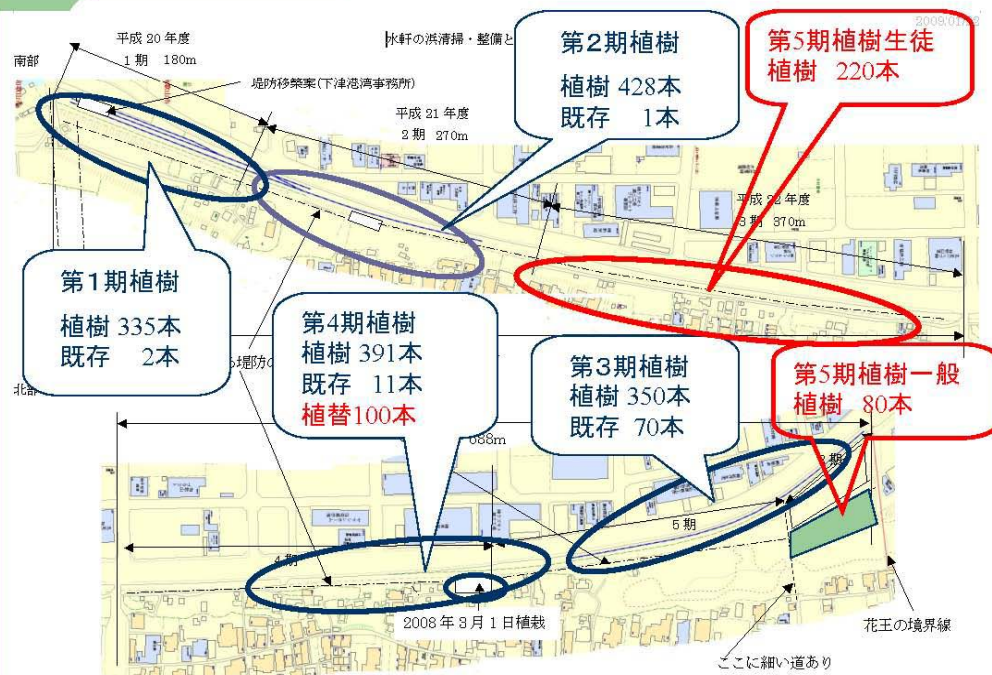
水軒の浜に松を植える会の活動

- **平成20年3月 記念植樹**として30本の抵抗性松を7本松に植樹。七本松とはこの場所に7本だけ松が残っていたので名づけた。抵抗性松とは松くい虫に強い松で、県の林業試験場から入手している。
- **平成21年2月 紀の国森づくり基金活用事業**で1年間かけて、雑木とゴミを撤去して、整地を行い、西浜中学校の**1年生198人**が松を植樹。3月に県知事・市長他市民が植樹。
- 以後、3年間毎年一年生に松を植えてもらい、今年が5年計画の最終回。
- この間、南海電車の軌道撤去跡を中心にいろいろな施設も設置した、水軒公園として和歌山市が管理してくれるように働きかけている。平成28年には実現する見通し。

基本コンセプト

水軒の浜を、
史跡石積堤防、
白砂青松、
健康推進
をテーマとする
歴史公園に！

松植栽5年計画と進捗



6.01 クリーン大作戦2



水軒堤防のごみの山の例



これまでの中学生の植樹風景 第2期 2010.2.12



これまでの中学生の植樹風景 第3期 2011.2.10



第1期(4年前)に植えた松と根上り松(右)



北端部の松林の再生 (よみがえる白砂青松)



水軒の浜の現状(遊歩道と設置した設備)



堤防上(松林内を含む)活用

- 遊歩道
南端から北端までの堤防上の遊歩道(2期の一部途切れ
ている)と第1, 2, 3期の堤防下の遊歩道
北部松林内の遊歩道
- 南部の第1期堤防上活用
健康遊具の森、ドッグラン1、
スポーツ砂場、クヌギの森
- 北部の第5期堤防上
フィールドアスレチック 10基



軌道撤去跡の活用1(健康ひろば)



軌道撤去跡の活用2 ドッグラン2とスポーツ砂場



軌道撤去跡の活用3

多目的ひろばと移設石積水軒堤防、堤防横庭



軌道撤去跡の活用4

- 桜の植樹
南部軌道撤去跡 2011年11月22本、2012年11月に30本
北部軌道撤去跡 2013年2月23日 大漁桜35本を植樹



防災活動に 活用を提案

- 水軒堤防は周囲に比べて高台になっている(海拔8m程度の場所有)
- 堤防上の家屋や倉庫・車庫の撤去跡地を活用する



市民のための公園にするために

- 南端部、北端部にトイレを設置。
- 北側に駐車スペースを設置(既存のスロープがある。場所周辺の家屋を撤去した跡地の利用)
- また、できれば北端部に進入路と駐車スペースを設ける(防災活用にも必要)。
- 松林・遊具設置場所・遊歩道等の定期的な除草作業ができる体制作り。とくに、地域住民の協力体制。
- 何よりもしっかりした活用計画を作る責任部署の決定が急がれる。

手づくり郷土賞(国交大臣表彰)受賞

